

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04413

研究課題名(和文)心理アセスメントにおけるスーパーヴィジョンシステムの構築

研究課題名(英文)Supervision System in Psychological Assessment

研究代表者

高橋 靖恵 (Takahashi, Yasue)

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：90235763

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：心理アセスメントのスーパーヴィジョンに関するニーズの把握について、スタートしてのアンケート調査結果は、国際ロールシャッハ学会、心理臨床スーパーヴィジョン学において公表した。2021年度に日本ロールシャッハ学会においてアンケートが実施され、ニーズはあるが、スーパーヴィジョンを受ける機会などさまざまな困難がある様子が示されていた。

さらに成果として、スーパーヴァイザー養成が喫緊の課題とも考えられ、各学会や研修会で講師を担い、心理アセスメントを含むスーパーヴィジョンや心理臨床家の訓練の必要性について講演を行った。また研究のまとめとなる書籍執筆に着手し、2023年度末に刊行予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、2014年の国際ロールシャッハ学会で行ったシンポジウムでの発表からの展開である。本研究成果の波及から2021年度に日本ロールシャッハ学会においてアンケートが実施され、2022年度、学会主催研修会の中でスーパーヴィジョンに関する研修コースを企画し、スーパーヴァイザー登録を勧めていく流れとなった。本成果の発信は、主として日本心理臨床学会、日本ロールシャッハ学会において発表やシンポジウムを通して行ってきた。学会や各種研修会において、心理臨床スーパーヴィジョンにおける指導者養成と、心理アセスメントのスーパーヴィジョンについて発信を続け、臨床心理士や公認心理師の教育に及ぼした意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：The results of the questionnaire survey on the needs for supervision of psychological assessment were published in the International Rorschach Society the Rorschach and Projective Methods, Psychological Clinical Supervision Studies. In 2021, a questionnaire was conducted at the Japan Rorschach Society, and it has been defined that the supervision was highly required, but various difficulties such as opportunities to receive supervision.

As a further result, the training of supervisors was considered as an urgent issue, and I served as a lecturer at various conferences and workshops, was giving lectures on the supervision including psychological assessment, and the need for training for psychological clinicians. Furthermore, we have been writing a book summarizing our research and is scheduled for publication at the end of 2023.

研究分野：臨床心理学

キーワード：心理アセスメント スーパーヴィジョン 臨床心理士指導者養成 心理療法

1. 研究開始当初の背景

臨床心理士の育成において「スーパーヴィジョン」の必要性が認識されつつある。心理療法のスーパーヴィジョン研究については、未だ開発段階ではあるものの論考が進められてきている(藤原編 2004、平木 2012、皆藤編 2014)。他方で、心理療法の方針を決定する上で必ず行われるはずの心理アセスメント(面接や観察等心理検査を含まない行為も含む)のスーパーヴィジョン研究については、わずかに書籍の1章分や論文として散見されるのみで、体系的なスーパーヴィジョンシステムの構築にはほど遠い段階といえる。こうした状況は学術的観点からみても、現行の臨床心理士養成においても専門的な臨床力を発揮できる専門家養成という観点からみて不十分である。それゆえ申請者は、下記の表に示すように、これまでに主として4つの研究助成における代表者、研究分担者として研究を進め、本申請課題の着想に至った。

1. <基盤研究(B)> 課題番号 18330147 > (2006年~2009年) 課題名「**児童青年の対人関係障害に対する多次元的アセスメントによる理解と援助**」(研究代表者:高橋靖恵) 【1.

課題の認識】本研究課題の成果が現場で広く実践可能となるには臨床心理士の養成が必要であるとの思いに至った。特に、児童青年の問題に限らず、心理臨床活動における幅広い心理アセスメントに対するスーパーヴィジョンシステムの必要性を強く認識した。

2. 日本臨床心理士養成大学院協議会・第1回研究助成事業<A:特別課題研究>(2009年~2010年) 研究課題名:「**臨床心理士養成大学院合同事例検討会における相互研修の検討 各大学の伝統を生かし、未来へつなぐ方法論への模索**」(研究代表者:高橋靖恵) 【2. 専門

家間での課題の共有】臨床心理士の養成について複数の大学院合同で事例検討を行うなかで、高度な専門職を担うスーパーヴィジョンシステムの検討及びスーパーヴァイザー養成が課題であるという共通認識を得た。

3. <平成22年度日本心理臨床学会研究助成>(2010年~2012年) 研究課題名:「**スーパーヴィジョンの充実に向けた実践的検討**」(研究代表者:皆藤章 研究分担者:高橋靖恵・浅田剛正他) 【3. 課題の一部具体化と発信】試行的検討を通して、「スーパーヴァイザーの資質

(臨床性)」と「学派を超えて多領域にわたる心理臨床活動を支えるスーパーヴァイザーの必要性とその育成にかかる問題点」を具体化し、その成果を国内に広く発信した(皆藤編 2014)

4. 国際シンポジウム Tadayuki Hashimoto, Yasue Takahashi, Hale Martin, Midori Kawamoto, Yuko Nishio, Stephen E Finn. 2014 <Symposium> Future Training and Education of Psychological Assessment: USA and Japan. XXI International Congress of Rorschach and Projective Methods, Istanbul University. 【4. 国際的研究への発展

のための土台形成】米国大学院の臨床心理学領域及び心理アセスメントにかかる育成課程に取り組み海外の専門家とネットワークを構築した。また議論を通して、心理アセスメントのスーパーヴィジョンについて国際的な水準との照合も重要であるとの認識を得た。

以上の研究を基盤として、本研究では国内外の情勢を把握し、現代日本の心理臨床実践教育に大きく貢献できる心理アセスメントのスーパーヴィジョン実践研究の発展を目指す。

2. 研究の目的

2018年(平成30年)から公認心理師の国家資格化が始まることを受け、臨床心理士の育成において重要な課題である「スーパーヴィジョン」の問題は、より一層現代の心理臨床領域において喫緊の課題となっている。とりわけ心理アセスメントの実践力、臨床力は、大学院までの基礎教育では到底養成できるものではない。しかしながら現行では、心理療法のスーパー

イジションの研修がようやく各事業において取り込まれる段階であり、「心理アセスメントのスーパーヴィジョン」については体系化がなされておらず、経験のある専門家が独自に行っている段階を越えられていない。そこで本研究では、上記の問題に関する幅広い調査をふまえた討議、各専門領域に通用する「心理アセスメントのスーパーヴィジョンシステム」を検討、構築することを目的とする。申請者のこれまでの研究から整理された課題をもとに、本研究では心理アセスメントのスーパーヴィジョンシステムの構築にあたり以下の4つの研究項目を設定する。

【研究1】心理アセスメントのスーパーヴィジョンに関する現状と課題の実態把握

【研究2】心理療法との比較における心理アセスメント独自のスーパーヴィジョン及びスーパーヴァイザー養成の特徴の明確化

【研究3】医療、教育、福祉、司法矯正、産業など各職域の心理臨床実践活動（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助活動）の特徴に応じた心理アセスメントのスーパーヴィジョンシステムの総合的検討

【研究4】国際的な心理アセスメントのスーパーヴィジョン水準との照合と国内における提言

3. 研究の方法

本研究では心理アセスメントのスーパーヴィジョン（以下SV）に関する体系化された実践研究のために、研究目的において述べた問題意識のもとに以下研究(1)-(4)を実施する計画を立案した。(1)全国の臨床心理士を幅広く対象にした、心理アセスメントにおけるSVに関する実態調査。(2)心理療法との比較における心理アセスメント独自のSV及びスーパーヴァイザー養成の特徴の明確化。(3)さまざまな実践活動現場のニーズにあわせた「心理アセスメントのSVシステム」の検討とそれらの養成課程の検討を重ね、複数の学会ならびに研修会での発信。(4)最終段階として、心理アセスメントにおけるSVシステムの構築について国際的な水準との照合、および、国内事情に見合ったシステムの完成と提言。

4. 研究成果

上記の研究1から4について相互の関連性も含みながらまとめておく。

【研究1】

初年度の2017年には、初心者から指導者経験を持つ臨床心理士有資格者を対象に、心理アセスメントのスーパーヴィジョン経験に関する実態調査を実施し、心理アセスメントのスーパーヴィジョンの現状と問題について分析した。次の【研究2】の視点と併せて、2017年7月パリで開催された International Congress of Rorschach and Projective Methods.において発表し、フロアとの討議を行った。2018年には、前年度遂行した研究領域より幅を広げて、アンケートや討議の機会を得ることができた。さらに2018年発行の心理臨床スーパーヴィジョン紀要に論文として掲載された。2019年度には、特に精神分析的な視点をもとにして、調査も進めていくことを試みた。従って、関連の学会や協会での「スーパーヴィジョン」「アセスメント」にかかわる研修会等に参加をして、実態把握に務めてきた。2018年度の日本家族心理学会第35回大会でのワークショップにおける、家族の心理アセスメントの実践について、講義終了後に参集された臨床心理士、家族心理士、そのほかの心の支援にかかわる専門家を対象に、幅広い経験者層から、心理アセスメントのスーパーヴィジョン経験に関する全国的な実態調査を実施し結果の分析を行った。

2020年度には、本研究の波及と思われる「心理アセスメントのスーパーヴィジョンに関するニーズの把握について」日本ロールシャッハ学会においても、アンケートが実施された。そうした全国規模の調査においても、ニーズはあるものの実態としてさまざまな困難がある様子が明示されていた。こうして本研究は、2021年度までに概ね調査は完了し、まとめの段階に入った。2022年度は、日本ロールシャッハ学会の教育・研修委員会において学会主催研修会の中でスーパーヴィジョンに関する研修コースを企画し、そこに集う熟練者たちに、スーパーヴァイザー登録を勧めていくことに着手した。これは本研究の社会的意義を示すもので波及効果と考えている。現在本課題の成果も含めて執筆中の書籍に掲載予定である。

【研究2】

2017年度上記【研究1】のアンケート分析から、心理療法のスーパーヴィジョンとは異なる心理アセスメントのスーパーヴィジョンの必要性及び心理アセスメント独自のプログラムを検討した。それらを踏まえた上で、さらに心理アセスメントにおけるスーパーヴァイザーの資質に関して検討した。上記の結果をもとに心理療法との違いを明確化し、心理アセスメントのスーパーヴィジョンに関わる必要性を確認し、【研究1】と併せてその成果を、2017年7月パリで開催された International Congress of Rorschach and Projective Methods.において発表し、フロアとの討議を行った。さらに2018年発行の心理臨床スーパーヴィジョン紀要に論文として掲載された。

2019年日本ロールシャッハ学会第23回大会において、研究協力者（高瀬由嗣・橋本忠行）らと共に「心理アセスメントのスーパーヴィジョン」における独自のプログラムを検討するために、指導者向けのワークショップ「心理アセスメントの教育とスーパーヴィジョン」を企画、実施した。多くの指導者から、心理アセスメントのスーパーヴィジョンシステムに関しては、実習先の現場とのタイアップが必須であり、大学での指導との滑らかな連携システムを考案していくことの重要性が見出された。また当該学会においても会員向けアンケートに際して、こうしたスーパーヴィジョンに関する項目が付与された。その分析結果からも、継続的な心理アセスメントのスーパーヴィジョンを希望する声の高さが立証された。

【研究3】

研究1および2を踏まえて、2018年度は、心理療法におけるスーパーヴィジョンについて、日本心理臨床学会第37回大会シンポジウム「アートとしてのスーパーヴィジョン - サイエンスとの対話を通して - 」での指定討論を行い、会場との討議によって今後の課題等を明確にすることができた。なお、研究代表者は、京都大学大学院博士後期課程において臨床心理士指導者養成に従事し、全国から指導者が院生として入学しているため、必要に応じて研究協力者の増員が可能であり、分析や討論による研究協力を得た。2019年度に日本ロールシャッハ学会第23回大会ワークショップでの検討を行うことでさらに研究の拡充を図ることが可能となった。本研究の主軸である、多領域に渡る心理臨床実践活動（心理アセスメント、心理面接、心理的地域援助活動）の特徴に応じた心理アセスメントのスーパーヴィジョンシステムの総合的検討については、2019年度日本ロールシャッハ学会主催研修会に幅広い関与ができた。

2020年度には、【研究2】ならびに【研究3】について、日本ロールシャッハ学会主催研修会をはじめ心理アセスメントの研修会での講師として、また参加協力者としてこれまで検討してきた内容について幅広い討論がなされる予定であった。しかし、新型コロナウイルス COVID-19感染症の世界的蔓延により、計画通りに進んでいた諸研究についての討議、研修会にての討論

が中止となった。これは、研究立案当初には予測不可能な事態であった。2021年7月に、日本ロールシャッハ学会主催研修会において、対面実施が可能となり、研修会参加者や講師の先生方と討議を行った。しかしこれ以降開催された学会、研修会は再びオンラインが中心となり、議論の継続が難しい状況となった。これらの体験からオンラインでのスーパーヴィジョンの可能性を含めた幅広いスーパーヴィジョンのあり方について、日本精神分析協会の訓練分析家の先生方との研修会と討議を継続することになった。なお研究に関する一部成果発表として、「ライフステージを臨床的に理解する心理アセスメント」(高橋靖恵編 金子書房)を出版した。

2022年度になって、諸学会ならびに学会主催研修会は、概ね対面実施に回復した。一方でオンラインでの研修の意義も見直され、オンライン方式での研修会も開催された。研究代表者は、これらの対面ならびにオンラインの両方で開催された複数の研修会講師を担い、幅広い心理臨床実践現場における心理アセスメントのスーパーヴィジョンについて、研究成果の披露が可能となった。

【研究4】

本研究着手当初の最初の【研究1】および【研究2】についての国際的な成果発表として、2017年7月パリで開催された International Congress of Rorschach and Projective Methods. において発表し、フロアとの討議を行った。そして、2020年度には、本来最終年度として、さらにそれぞれのまとめが【研究4】として集約される場所であった。2020年度開催予定であった国際ロールシャッハ学会は2021年度に一旦延期になったが、2022年度への延期となった。研究代表者はオンラインでの参加となり、チャットによる討論にとどまったが、次期の国際大会への展望を持つことが叶った。さらにシドニーにて開催予定であった国際精神分析協会主催アジアパシフィックカンファレンスに参加し、国際的討議を予定していたが、上記の理由により中止となった。2022年バンクーバーでの開催予定であった国際精神分析協会は、オンラインでの開催となり、国際的な事例検討は困難と考え、参加を見合わせた。

従って、本課題の【研究4】については、現在も継続中となった。

ここまで進めてきた心理アセスメントに関するスーパーヴィジョンシステムについての検討は、複合的な研究成果から、さらに心理療法を含めた幅広いスーパーヴィジョンのあり方について、**統合的なスーパーヴィジョンとその指導者養成**に向けての検討が望ましいと考えるに至った。2020年度から国際的な視野を持つ日本精神分析協会の訓練分析家の先生方(スーパーヴァイザー：東京・福岡の各地区)と定期的な討論を続けてきた。この研修によってこれまで考察してきた内容が充実し、さらに発展可能性を得ることができた。これらから得た成果を2022年度にまとめを行うことと計画変更した。2022年2月にはこれまでの成果を「企画」の形で具現化させ、日本心理臨床学会 教育・研修委員会企画 第1回全国研修会 において、指導者養成研修会を実施した。この成果を国際学会での発信をしていく予定であるが、臨床事例をもとにした総合的検討は、その性質上オンラインでの検討が困難であるため、2024年 Copenhagenにて開催予定の International Congress of Rorschach and Projective Methods での発表と討論に向けてまとめていくこととなった。

これらの活動によってこれまで考察してきた内容が充実し、研究のまとめとなる書籍執筆に着手した。本書は、2023年度末に刊行予定である。2023年3月にはこれまでの成果を研究協力者と共に「企画」の形で具現化させ、日本ロールシャッハ学会主催研修会において、ライブスーパーヴィジョンの形で、指導者養成研修会を実施した

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 9
2. 論文標題 心理臨床における「時間」と「言葉」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沢宮容子・山田美穂・山本力・木下直樹・岡本祐子・高橋靖恵・吉川眞理・窪田由紀	4. 巻 40
2. 論文標題 情報：心理臨床の初学者に学ぶ 教育・研修における相互作用 - 第41回大会教育・研修委員会企画シンポジウム	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 心理臨床学研究	6. 最初と最後の頁 546-570
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 66
2. 論文標題 治療者の事後性とアセスメントへの回帰	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 精神分析研究	6. 最初と最後の頁 247-259
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 26
2. 論文標題 心理アセスメントの新たな学びと伝承	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロールシャッハ法研究	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 26-S
2. 論文標題 " Psychodiagnostik " の来日 - 京都大学図書館を訪ねて -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロールシャッハ法研究	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Takahashi	4. 巻 26-S
2. 論文標題 Introducing " Psychodiagnostik " to Japan-Visiting Kyoto University Medical Library-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of The Japanese society for The Rorschach and Projective methods	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西見奈子・高橋靖恵・上田裕也・西岡小春・浦田晃正・星野修一	4. 巻 47
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が心理臨床業務に与えた影響 緊急事態宣言直後のアンケート調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 42 - 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 11
2. 論文標題 シンポジウム 「精神分析的な精神療法：精神療法家と精神分析家のプロセス」指定討論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本精神分析協会年報	6. 最初と最後の頁 73-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasue Takahashi	4. 巻 31
2. 論文標題 International Report: As the President of Japanese Society for The Rorschach and Projective Methods.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Bulletin of International Society of the Rorschach & Projective Methods.	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 25
2. 論文標題 巻頭言：日本ロールシャッハ学会25周年に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロールシャッハ法研究	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 7
2. 論文標題 「コロナ禍における心理臨床」特集に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学 (京都大学大学院教育学研究科 臨床心理学講座 臨床実践指導者養成コース紀要)	6. 最初と最後の頁 2 - 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 6
2. 論文標題 「巻頭言 揺れる船を支える使命」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 6
2. 論文標題 「特集 心理臨床学会第37回大会 会員企画シンポジウム <アートとしてのスーパーヴィジョン サイエンスとの対話を通して > - 指定討論者として」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学	6. 最初と最後の頁 44 - 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 5
2. 論文標題 「巻頭言 臨床実践指導学講座の新しい船出」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学 (京都大学大学院教育学研究科 臨床心理学講座 臨床実践指導者養成コース紀要)	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 5
2. 論文標題 「特集1 臨床実践指導学講座合宿シンポジウム <社会的脆弱性をもつ人々の人権問題を考える - 司会者の立場から」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学 (京都大学大学院教育学研究科 臨床心理学講座 臨床実践指導者養成コース紀要)	6. 最初と最後の頁 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 5
2. 論文標題 「特集2 心理臨床学会第36回大会 自主シンポジウム <スーパーヴァイザーは何を悩むのか> - 指定討論を経験して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 心理臨床スーパーヴィジョン学 (京都大学大学院教育学研究科 臨床心理学講座 臨床実践指導者養成コース紀要)	6. 最初と最後の頁 42 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 21巻 (s1号)
2. 論文標題 「学会活動の歴史と展望 学会の現状と展望(事務局)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロールシャッハ法研究	6. 最初と最後の頁 30-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 昇・黒田浩司・小海浩之・高橋靖恵・中原睦美	4. 巻 22巻
2. 論文標題 「日本ロールシャッハ学会第21回大会 教育・研修委員会企画ミニシンポジウム 「これからの心理アセスメント教育を考える」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ロールシャッハ法研究	6. 最初と最後の頁 54-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵	4. 巻 45巻
2. 論文標題 「巻頭言 新しい挑戦と共に歴史を護る」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床心理事例研究 (京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要)	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋靖恵・鍛冶美幸・高澤知子	4. 巻 4
2. 論文標題 特集(スーパーヴィジョンをめぐる研究報告)心理アセスメントのスーパーヴィジョン	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 心理臨床 スーパーヴィジョン学	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「心理アセスメントのライブスーパーヴィジョン」
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会主催 第14回ロールシャッハ研修会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋靖恵・日下紀子・布柴靖枝・高橋昇
2. 発表標題 「心理臨床における多様なスーパーヴィジョンの在り方について これからスーパーヴィジョンを行う中堅者とスーパーヴァイザー経験者対象の指導者養成研修 講師
3. 学会等名 日本心理臨床学会 教育・研修委員会企画 第1回全国研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 （シンポジスト） 二宮ひとみ・川端康雄，（指定討論） 高橋靖恵・寺嶋繁典．
2. 発表標題 シンポジウム「EBA(Evidence Based Approach)におけるロールシャッハ・テストの活用 投映法のサイエンスとアートの調和 」
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会第26回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 （シンポジスト） 沢宮容子・山田美保・山本力・木下直樹 （指定討論） 岡本祐子・高橋靖恵
2. 発表標題 教育・研究委員会企画シンポジウム『心理臨床の初学者に学ぶ 教育・研修における相互作用
3. 学会等名 日本心理臨床学会第41回大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 (シンポジスト)高野晶・藤内栄太・高橋靖恵・吉沢伸一 (指定討論)上田勝久・加茂聡子
2. 発表標題 医療問題・臨床心理委員会合同企画「一般臨床において精神分析的設定を立ち上げること」医師・心理士それぞれの立場から
3. 学会等名 日本精神分析学会第68回大会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「心理アセスメントのスーパーヴィジョン」講師 全体会(シンポジウム)シンポジスト
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会主催 第13回ロールシャッハ研修会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 シンポジウム『事例検討会を再検討する その2』- 事例検討グループが持つ力 - 指定討論
3. 学会等名 日本心理臨床学会 第40回大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 教育講演 2 「心理アセスメントの新たな学びと伝承」
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会第25回大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 事例検討会発表「精神分析的精神療法空間に漂う日常性と時間」
3. 学会等名 日本精神分析協会 精神分析的精神療法家センター 第4回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「事例で学ぶテストバッテリー」講師
3. 学会等名 NPO法人 九州大学こころとそだちの相談室主催研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「事例で学ぶテストバッテリー」講師
3. 学会等名 NPO法人 九州大学こころとそだちの相談室主催研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「精神分析的精神療法：精神療法家と精神分析家のプロセス」指定討論
3. 学会等名 日本精神分析協会 精神分析的精神療法センター学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋昇・田代しらべ・片山郁野・高橋靖恵
2. 発表標題 対象関係投映法（ORT）とロールシャッハ法の比較検討 - 統合失調症圏の事例を通して -
3. 学会等名 日本心理臨床学会第39回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 講師：西見奈子・佐々木大樹 司会担当 高橋靖恵
2. 発表標題 ミニレクチャー「コロナ禍における心理臨床のありかた」
3. 学会等名 日本心理臨床学会第39回大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 自主シンポジウム「認知行動療法・ブリーフセラピーの理論から心理検査(投映法)を読み解く試み2 一枚の風景構成法から 指定討論者
3. 学会等名 日本心理臨床学会第38回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 「事例で学ぶテストバッテリー」第1回 講師
3. 学会等名 九州大学こころとそだちの相談室主催研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋靖恵・高瀬由嗣・橋本忠行
2. 発表標題 ワークショップ「心理アセスメントの教育とスーパーヴィジョン」
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会第23回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 特別講演「松木邦裕氏 心理アセスメントに期待するもの」及び特別講演記念対談(松木邦裕氏・馬場禮子氏) (司会)
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会第23回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鵜飼美昭・高橋靖恵
2. 発表標題 「子どもの心を育み培う地域文化力を考える 臨床心理士と心の文化創造への期待と展望 総司会
3. 学会等名 日本臨床心理士資格認定協会 心の健康・文化フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 会員企画シンポジウム「アートとしてのスーパーヴィジョン - サイエンスとの対話を通して - 指定討論者
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井村修・江口昌克・桑原知子・沢宮容子・高橋靖恵・老松克博・野村晴夫・佐々木淳
2. 発表標題 大会実行委員会・研究推進事業委員会<合同企画シンポジウム> 「臨床心理的支援における効果研究のあり方 その課題と展望」 企画
3. 学会等名 日本心理臨床学会第37回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 日本家族心理学会ワークショップ A 「家族心理アセスメントの実践」
3. 学会等名 日本家族心理学会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ○Miyuki Kaji・Yasue Takahashi
2. 発表標題 The Application of Movement Analysis to Content Analysis of Rorschach Human Movement Responses.
3. 学会等名 RORSCHACH CONGRESS (International Society of the Rorschach & Projective Method). (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ○Hiroshi Kuroda, Yoshiharu Matsuse, Yasue Takahashi & Noboru Takahashi.
2. 発表標題 “Preliminary study of application of Object Relations Technique to Japanese Students.”
3. 学会等名 RORSCHACH CONGRESS (International Society of the Rorschach & Projective Method). (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ○Noboru Takahashi, Yasue Takahashi, Kayo Ishii, Hiroshi Kuroda & Yoshiharu Matsuse.
2. 発表標題 “ The Practical Study of The Object Relations Technique - Relevance with Rorschach - ”
3. 学会等名 RORSCHACH CONGRESS (International Society of the Rorschach & Projective Method). (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 ○Yasue Takahashi, Miyuki Kaji & Tomoko Takazawa.
2. 発表標題 “ Supervision of Psychological Assessment Related to Projective Methodology and Its Clinical Application ”
3. 学会等名 RORSCHACH CONGRESS (International Society of the Rorschach & Projective Method). (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋靖恵
2. 発表標題 日本ロールシャッハ学会 教育・研修委員会企画ミニシンポジウム「これからの心理アセスメント教育を考える」(シンポジスト)
3. 学会等名 日本ロールシャッハ学会第21回大会(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 高橋靖恵 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 146
3. 書名 ライフステージを臨床的に理解する心理アセスメント	

1. 著者名 日本家族心理学会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 499
3. 書名 家族心理学ハンドブック 編集担当： 個別領域における家族支援 執筆担当： 個別領域における家族支援 6 医療領域における家族支援	

1. 著者名 名古屋ロールシャッパ研究会編 加藤淑子・森田美弥子・高橋昇・高橋靖恵・坪井裕子・畠垣智恵・山田勝 責任編集	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 ロールシャッパ法解説 - 名古屋大学式技法 -	

1. 著者名 皆藤章(監修) 高橋靖恵・松下姫歌(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 創元社	5. 総ページ数 372
3. 書名 京大心理臨床シリーズ12 いのちを巡る臨床 - 生と死のあわいに生きる臨床の叡智 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高瀬 由嗣 (Takase Yuji)		
研究協力者	橋本 忠行 (Hashimoto Tadayuki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鍛冶 美幸 (Kaji Miyuki)		
研究協力者	高澤 知子 (Takazawa Tomoko)		
研究協力者	長谷 綾子 (Hase Ayako)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関